

(主体ごとの基本的方向)

基本的方向6 多様な環境教育プログラム・教材等を提供する

人づくり

環境の視点を取り入れた、多様な環境教育プログラムや資料・教材、データや機会などを提供することで、環境に対する想いや地域への愛着を深めます。その際、各主体と連携しながらあらゆる対象に応じた環境教育プログラム・教材等を整備するとともに、すでに各主体が有しているものについて共有・活用できるしくみづくりを検討します。

目的・取組み・具体例

◆環境の視点を取り入れた多様なプログラム・教材等により、環境マインドが育つ。

- ➡主体や対象に応じた、体系的な環境教育プログラム・教材等の提供
(→基本的方向1、基本的方向3、基本的方向4)
- ➡全ての分野（生活環境、自然共生、資源循環、低炭素）における最新のプログラム・教材等の充実
- ➡地域の特性を活かしたプログラムや地域の課題や魅力への気づきにつながるプログラムなどの提供

・博多湾における環境教育プログラム

：地元の小学生を対象にしたカプトガニの放流会や野鳥観察などの環境教育を実施【環境局】

その他、立花山・三日月山ふれあいの森づくり事業【東区】、人と自転車が共生できるまちづくり事業【博多区】、花いっぱい運動【中央区】、まちのよかところ再発見事業【南区】、油山の魅力発信・ハチクマウォッチング【城南区】、歩きたくなるまちづくり事業【城南区】、室見川水系一斉清掃【早良区】、フラワーハートシティ事業【住宅都市局】など



カプトガニの放流会の様子

➔多様な媒体を活用した、環境教育プログラム・教材等の提供



貸出しをしている大型紙芝居

・環境学習教材の貸出し

：大型紙芝居・DVDなどの環境教材の貸出し
【環境局】

その他、こども環境ウェブサイト【環境局】、
環境副読本【環境局】 など

◆各主体が共働・連携して環境教育・学習のプログラムや教材等を提供し、
また互いに共有・活用する。

➔各主体との共働・連携による、環境教育プログラム・教材等の具体的内容の検討

・環境副読本の作成：小学校教員と共に検討・作成【環境局】

➔各主体が有する環境教育プログラム・教材等の活用促進

めざすこと

市民団体は環境に関する知識とノウハウを有し、対象に応じた多様なプログラムを持っています。例えば、小学3年生の国語の単元「すがたをかえる大豆」に関連し、種をまき、育て、収穫、きなこにして食べるまでを体験する「大豆はかせになろう」授業プログラム。新聞離れしている小学生が新聞に親しみ、スクラップをつくりながら、紙の役割や特性を知り、紙を大切にすることを学ぶ、小学校高学年向けの「マイスクラップで伝えよう」授業プログラム。全学年を対象に学校で1カ月間ダンボールコンポストを実践し、生ごみが土にかえる過程を体験しながら、自分で生ごみ減量を実践できる「ダンボールコンポストを利用した生ごみ堆肥化」授業プログラムなどがあります。

また、地域の自然をテーマとして複数学年にわたって環境教育プログラムを実施している学校や積極的に他の主体の環境教育を支援している事業者など、各主体は充実したプログラム・教材等を持っています。

こうしたプログラム・教材等をデータベース化するなどして広く発信し、活用の促進を図っていきます。



「マイスクラップで伝えよう」授業風景



「大豆はかせになろう」大豆収穫の様子